

## 【第125回生涯教育講座】

## 口腔アレルギー症候群

もり た えい しん  
森 田 栄 伸

キーワード：花粉症，花粉-食物アレルギー症候群，バラ科果物，交差反応，生体防御蛋白

## 要 旨

口腔アレルギー症候群 (oral allergy syndrome: OAS) は、食物アレルギーの特殊型に区分されている。OAS は、感作抗原に相同性を有する複数の食物に対して抗原特異的 IgE が交差反応し、これらの食物を摂取した際に口腔粘膜の過敏症状を示すことが特徴で、近年増加傾向にある。診断には、食物摂取後に口腔・咽頭粘膜の過敏症状を示し、プリックテストあるいは抗原特異的 IgE 検査で感作を確認する。原因食品では、リンゴ、モモ、キウイ、メロン、大豆の順に多く、その他多彩な食品が原因となる。本邦では、カバノキ科花粉に感作され、その主要抗原である生体防御蛋白やプロフィリンと相同性の高い交差抗原を含有するバラ科果物、セリ科野菜、ウリ科果物、キウイ、大豆、ナッツ類に対してアレルギー症状を示す場合が多いためである。

## はじめに

食物を摂取後に様々なアレルギー症状が現れることがあり、食物アレルギーと呼ばれている。食物アレルギー診療ガイドライン2016では、食物アレルギーとは、「食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象」と定義されている<sup>1)</sup>。食物アレルギーの症状は皮膚、粘膜、呼吸器、消化器、神経、循環器にみられ、患者個々によって症状の出現は様々であるものの基本的には

即時型反応として観察される。IgE を介した即時型症状のほか、IgE を介さない免疫学的機序も含まれるため発症形態も多様であり、食物アレルギーは臨床的に表1のように病型分類されている<sup>1)</sup>。このうち食物依存性運動誘発アナフィラキシー (Food-dependent exercise-induced anaphylaxis: FDEIA) と口腔アレルギー症候群 (oral allergy syndrome: OAS) は、その発症様式が特殊なことから特殊型に区分されている。OAS は、感作抗原に相同性を有する複数の食物に対して感作抗原特異的 IgE が交差反応し、これらの食物を摂取した際に口腔粘膜の過敏症状を示すことが特徴で、近年増加傾向にある。筆者は、厚生労働省科学研究費補助金 (難治性疾患等克服

Eishin MORITA

島根大学医学部皮膚科

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部皮膚科